(第三種郵便物認可)

行動する中堅の女性論客

占いの玉手箱主宰

竹村 亞希子さん

無から有の発想で占い師に

イベント時代に適応

企業の販促部回りPR

「占いはその後の対策、対処法のアドバイスが重要だと思う」と語る竹村亜希子さん

船井総合研究所の船井幸雄会長と

竹村亜希子氏（たけむら・あきこ）昭和二十四年九月二十八日、名古屋市生まれ。占いに初めて興味を持ったのは、小学生の時。家にあった姓名判断の本と出合ってから。それからしばらくして、中学二年生の春、突然自宅にやってきた仙人から占いの手ほどきを受け、人相、手相、易学、命宮学を伝授される。四十三年愛徳高校卒業後、銀行員となり三年半のOL生活を送り、四十七年結婚。三児の母、普通の主婦として過ごすが、五十三年、何気なしに見ていたテレビ番組がきっかけとなり、家庭の主婦の座にピリオドを打つ決心を。資本金は、交通費と名刺の印刷代をあわせた、わずか千八百円というスタートだった。へこれからはイベントの時代が来る〉と、企業を中心に活動を開始し、イベントと占いを結びつけるという新しい分野の提案を行う。それが受けて、翌年五月には市内のワンルームマンションに事務所を設けるまでに成長。〈占いの玉手箱〉会社設立は昭和五十七年五月。現在スタッフは三十人。若い女性の占い師グループ〈魔女クラブ〉も、同社のスタッフの一員だ。丸栄スカイルをはじめとする占いコーナーの運営やイベント企画・運営、講師派遣など、幅広い事業を手掛ける。竹村さん本人も算木と筮竹（ぜいちく）をベースにマイコンも使える占い全般にとどまらず、筆跡、講師派遣など、多彩なネットワークに手腕を発揮している。著書も多数で「運を呼び込む逃す化粧」（ごま書房刊）などがある。四月二十一日、男性と女性が赤いバラを贈りあう〈サンジョルディの日〉の仕掛け人でもある。

資本金わずか千八百円

資本金わずか千八百円のスタートだった。そのうちわけは交通費八百円と名刺の印刷代一千円。そして、ここからが竹村さんと常人の違いなのだが、彼女は街頭に出たりせず、企業の販売促進部をまわった。

「占い師というと、街頭に出て…というのが業界のパターン。しかし、私は考えその逆をたどらなかった。これからはイベントの時代が来ると考え、イベントの中に占いコーナーを設ける提案をしてまわったんです。十二年前のことですから、非常に珍しがられました。へこれはいけるぞ〉と面白がって、さっそくイベントに取り上げる会社が多かったですね」

竹村さんが、占いの世界に足を踏み入れたのは、結婚して三人相、手相、易学、命宮学の手ほどきを受けたんです。面白くて、夜中まで没頭することもよくありました。

不思議な体験自体にもびっくりさせられるが、それよりも驚きなのは、竹村さんがこんな非現実的なことを、クールな表情で淡々と語ることだ。とにかく、この体験が少女の生き方を決めることになる。

「学校を卒業して、銀行勤めを三年半、その後結婚して、三人の子供を育てて、普通の生活を送っていました。あのころは、完全に主婦ほけしていましたね。そんな毎日にピリオドを打つことを決心させたのが、何の気なしに見ていたテレビドラマ。もう顔も名前も忘れてしまったけど、無名の演歌歌手が大きな賞をとって、大スターになるまでを描いた、とてもすばらしいドラマでした」

何かがしたい、しかしそれが何なのか、またどうやって実行すればいいのか…多くの主婦が抱く焦燥。竹村さんも同じ様な悩みを抱えていたのだ。

「学校から帰るとすぐ、宿題にと、ようなシンプルにかられていたことがあったのか。

「私に何かできるとしたら占いしかない。しかし資本もないし、コネクションもない。まあ、言ってみれば無から有の発想ですね」

企業トップ「から信頼」

今では占い師として、占いの玉手箱の主宰として、数多い企業のトップたちから信頼を得ている竹村亜希子さん。現在の地位を築くまでに、どんな行程を歩んできたのだろうか。

空前の占いブームの雑誌にも占いのページが掲載され、デパートやイベント会場に設けられた占いコーナーはどこも大盛況…。もっとも、激動の時代にあって、一寸先はやみ、この世の中、占いはあらゆる場面において欠かすことのできない、大切な決断材料になっているのかもしれない。

竹村亜希子さんが主宰する〈占いの玉手箱〉は、運勢鑑定、赤ちゃんの命名、店名、芸名、社名、新商品名などの占い全般を中心に、イベント企画・運営、講師派遣などを営業内容とする、占い師の集団だ。

両極端の魅力備える

サンジョルディの件にしても、最初は半信半疑で聞いていたんですけど、あれよあれよという間に実現させた。トップとは、社会情勢、企業の状態などを的確にキャッチし、それを占いにプラスしているからだと思う。占いというものは、揺らぐことのない、悠久の世界。それに日々刻々と変わる社会情勢をプラスするという、彼女なりの方法が認められたんですね。

竹村さんと初めてお会いしたのは、七、八年前、何かのパーティーの席で。周りの人間から一瞬にして、あんなに気が合ってしまったのかもしれません。共通している点といえば、お互いに一生懸命生きている、といいうこと。それと食べ物の趣味も似ているんですよ。

竹村さんが、企業のトップたちに絶大な信頼を得ているのは、社会情勢、企業の状態などを的確にキャッチし、それを占いにプラスしているからだと思う。占いというものは、揺らぐことのない、悠久の世界。それに日々刻々と変わる社会情勢をプラスするという、彼女なりの方法が認められたんですね。

竹村さんが、占いの世界に足を踏み入れたのは、結婚して三人相、手相、易学、命宮学の手ほどきを受けたんです。面白くて、夜中まで没頭することもよくありました。

不思議な体験自体にもびっくりさせられるが、それよりも驚きなのは、竹村さんがこんな非現実的なことを、クールな表情で淡々と語ることだ。とにかく、この体験が少女の生き方を決めることになる。

「学校を卒業して、銀行勤めを三年半、その後結婚して、三人の子供を育てて、普通の生活を送っていました。あのころは、完全に主婦ほけしていましたね。そんな毎日にピリオドを打つことを決心させたのが、何の気なしに見ていたテレビドラマ。もう顔も名前も忘れてしまったけど、無名の演歌歌手が大きな賞をとって、大スターになるまでを描いた、とてもすばらしいドラマでした」

何かがしたい、しかしそれが何なのか、またどうやって実行すればいいのか…多くの主婦が抱く焦燥。竹村さんも同じ様な悩みを抱えていたのだ。

「学校から帰るとすぐ、宿題にと、ようなシンプルにかられていたことがあったのか。

「私に何かできるとしたら占いしかない。しかし資本もないし、コネクションもない。まあ、言ってみれば無から有の発想ですね」

資本金わずか千八百円

資本金わずか千八百円のスタートだった。そのうちわけは交通費八百円と名刺の印刷代一千円。そして、ここからが竹村さんと常人の違いなのだが、彼女は街頭に出たりせず、企業の販売促進部をまわった。

「占い師というと、街頭に出て…というのが業界のパターン。しかし、私は考えその逆をたどらなかった。これからはイベントの時代が来ると考え、イベントの中に占いコーナーを設ける提案をしてまわったんです。十二年前のことですから、非常に珍しがられました。へこれはいけるぞ〉と面白がって、さっそくイベントに取り上げる会社が多かったですね」

竹村さんが、占いの世界に足を踏み入れたのは、結婚して三人相、手相、易学、命宮学の手ほどきを受けたんです。面白くて、夜中まで没頭することもよくありました。

不思議な体験自体にもびっくりさせられるが、それよりも驚きなのは、竹村さんがこんな非現実的なことを、クールな表情で淡々と語ることだ。とにかく、この体験が少女の生き方を決めることになる。

「学校を卒業して、銀行勤めを三年半、その後結婚して、三人の子供を育てて、普通の生活を送っていました。あのころは、完全に主婦ほけしていましたね。そんな毎日にピリオドを打つことを決心させたのが、何の気なしに見ていたテレビドラマ。もう顔も名前も忘れてしまったけど、無名の演歌歌手が大きな賞をとって、大スターになるまでを描いた、とてもすばらしいドラマでした」

何かがしたい、しかしそれが何なのか、またどうやって実行すればいいのか…多くの主婦が抱く焦燥。竹村さんも同じ様な悩みを抱えていたのだ。

「学校から帰るとすぐ、宿題にと、ようなシンプルにかられていたことがあったのか。

「私に何かできるとしたら占いしかない。しかし資本もないし、コネクションもない。まあ、言ってみれば無から有の発想ですね」

知人のひとこと

竹村さんと初めてお会いしたのは、七、八年前、何かのパーティーの席で。周りの人間から一瞬にして、あんなに気が合ってしまったのかもしれません。共通している点といえば、お互いに一生懸命生きている、といいうこと。それと食べ物の趣味も似ているんですよ。

竹村さんが、企業のトップたちに絶大な信頼を得ているのは、社会情勢、企業の状態などを的確にキャッチし、それを占いにプラスしているからだと思う。占いというものは、揺らぐことのない、悠久の世界。それに日々刻々と変わる社会情勢をプラスするという、彼女なりの方法が認められたんですね。

両極端の魅力備える

サンジョルディの件にしても、最初は半信半疑で聞いていたんですけど、あれよあれよという間に実現させた。トップとは、社会情勢、企業の状態などを的確にキャッチし、それを占いにプラスしているからだと思う。占いというものは、揺らぐことのない、悠久の世界。それに日々刻々と変わる社会情勢をプラスするという、彼女なりの方法が認められたんですね。

竹村さんが、占いの世界に足を踏み入れたのは、結婚して三人相、手相、易学、命宮学の手ほどきを受けたんです。面白くて、夜中まで没頭することもよくありました。

不思議な体験自体にもびっくりさせられるが、それよりも驚きなのは、竹村さんがこんな非現実的なことを、クールな表情で淡々と語ることだ。とにかく、この体験が少女の生き方を決めることになる。

「学校を卒業して、銀行勤めを三年半、その後結婚して、三人の子供を育てて、普通の生活を送っていました。あのころは、完全に主婦ほけしていましたね。そんな毎日にピリオドを打つことを決心させたのが、何の気なしに見ていたテレビドラマ。もう顔も名前も忘れてしまったけど、無名の演歌歌手が大きな賞をとって、大スターになるまでを描いた、とてもすばらしいドラマでした」

何かがしたい、しかしそれが何なのか、またどうやって実行すればいいのか…多くの主婦が抱く焦燥。竹村さんも同じ様な悩みを抱えていたのだ。

「学校から帰るとすぐ、宿題にと、ようなシンプルにかられていたことがあったのか。

「私に何かできるとしたら占いしかない。しかし資本もないし、コネクションもない。まあ、言ってみれば無から有の発想ですね」

占いでチャンス生かす

それでは竹村さんが考える占いとは何なのか…。

「占いとは、ひとことでいえば〝関数ボックス〟です。情報をインプットするとデータがアウトプットされる。これを推理し、何を意味しているのかを考えるのが占い師の仕事なのです。占い師が告げる〈解答〉は、占ってもらう立場の人にとっては〈データ〉でしかない、そう私は考えます」

占いはこれから起こる出来事を予測し、災いが身にふりかかるのを事前に防止、チャンスを生かすために、よく言われる。

「これからよくないことが起こりますよ、というだけでは、いくらその占いが当たっていても何にもならない。その後の対策、対処法のアドバイスが重要だと思うんです」

ところで〈サンジョルディの日〉をあなたはご存じか。スペイン、カタルーニャ地方に伝わるお祭りで、男性は赤いバラの花を、女性は本を贈り合うことで、数年バレンタインデーに代わる知的なイベントとして脚光を浴びたことぐらいはあるだろう。実はこの祭りを、スペインから日本へ通って来た坂本というのが、外ならぬ竹村さんなのである。

「海外旅行の経験もなく、スペインの風習のことなど、全く知りませんでした。六年前のことです。世間話の中で、偶然この話を聞いて、なんてきれいで面白いお祭りがあるってショックを受けたの。すばらしいことを知りたかったので、百科事典やスペイン・カタルーニャの歴史を調べていくうちにますます興味がわいてきて」

日本人にはまだ本や花を贈る習慣はないが、二十一世紀には

企業トップ「から信頼」

今では占い師として、占いの玉手箱の主宰として、数多い企業のトップたちから信頼を得ている竹村亜希子さん。現在の地位を築くまでに、どんな行程を歩んできたのだろうか。

空前の占いブームの雑誌にも占いのページが掲載され、デパートやイベント会場に設けられた占いコーナーはどこも大盛況…。もっとも、激動の時代にあって、一寸先はやみ、この世の中、占いはあらゆる場面において欠かすことのできない、大切な決断材料になっているのかもしれない。

竹村亜希子さんが主宰する〈占いの玉手箱〉は、運勢鑑定、赤ちゃんの命名、店名、芸名、社名、新商品名などの占い全般を中心に、イベント企画・運営、講師派遣などを営業内容とする、占い師の集団だ。

知人のひとこと

竹村さんと初めてお会いしたのは、七、八年前、何かのパーティーの席で。周りの人間から一瞬にして、あんなに気が合ってしまったのかもしれません。共通している点といえば、お互いに一生懸命生きている、といいうこと。それと食べ物の趣味も似ているんですよ。

竹村さんが、企業のトップたちに絶大な信頼を得ているのは、社会情勢、企業の状態などを的確にキャッチし、それを占いにプラスしているからだと思う。占いというものは、揺らぐことのない、悠久の世界。それに日々刻々と変わる社会情勢をプラスするという、彼女なりの方法が認められたんですね。

竹村さんが、占いの世界に足を踏み入れたのは、結婚して三人相、手相、易学、命宮学の手ほどきを受けたんです。面白くて、夜中まで没頭することもよくありました。

不思議な体験自体にもびっくりさせられるが、それよりも驚きなのは、竹村さんがこんな非現実的なことを、クールな表情で淡々と語ることだ。とにかく、この体験が少女の生き方を決めることになる。

「学校を卒業して、銀行勤めを三年半、その後結婚して、三人の子供を育てて、普通の生活を送っていました。あのころは、完全に主婦ほけしていましたね。そんな毎日にピリオドを打つことを決心させたのが、何の気なしに見ていたテレビドラマ。もう顔も名前も忘れてしまったけど、無名の演歌歌手が大きな賞をとって、大スターになるまでを描いた、とてもすばらしいドラマでした」

何かがしたい、しかしそれが何なのか、またどうやって実行すればいいのか…多くの主婦が抱く焦燥。竹村さんも同じ様な悩みを抱えていたのだ。

「学校から帰るとすぐ、宿題にと、ようなシンプルにかられていたことがあったのか。

「私に何かできるとしたら占いしかない。しかし資本もないし、コネクションもない。まあ、言ってみれば無から有の発想ですね」

資本金わずか千八百円

資本金わずか千八百円のスタートだった。そのうちわけは交通費八百円と名刺の印刷代一千円。そして、ここからが竹村さんと常人の違いなのだが、彼女は街頭に出たりせず、企業の販売促進部をまわった。

「占い師というと、街頭に出て…というのが業界のパターン。しかし、私は考えその逆をたどらなかった。これからはイベントの時代が来ると考え、イベントの中に占いコーナーを設ける提案をしてまわったんです。十二年前のことですから、非常に珍しがられました。へこれはいけるぞ〉と面白がって、さっそくイベントに取り上げる会社が多かったですね」